

卷頭
幾多の困難を乗り越えて、
まつり囃子が戻つてくる

第59回 大四日市まつり 3年ぶりの開催!

info
大四日市まつりの最新情報はここでチェック!

大四日市まつり公式サイト



四日市が1年の中で最も熱気に満ちた日となる「大四日市まつり」。

コロナ禍の影響で2年間中止を余儀なくされましたが、今年は3年ぶりの開催となる。

半世紀以上に及ぶ歴史や開催までの経緯を振り返るとともに、

3年分の想いが詰まった第59回大四日市まつりの見どころを紹介する。

出演団体の熱意によつて 3年ぶりの開催が決定

初日の「おどりの日」には大四日市まつり音頭に合わせた「おどりフェスタ」など市民参加の踊りで盛り上がり、2日目の「郷土の文化財と伝統芸能の日」では市内各地に伝承される山車やネリが演技を披露。多彩な行事が繰り広げられる大四日市まつりは、市民一人ひとりの手によって作り上げられ、60年近い歴史を持つ四日市を代表する夏まつりだ。

昭和39(1964)年、四日市の中心部で行われていた「港まつり」「七夕まつり」「商品祭」の3

つの祭りを統合して誕生。第1回は3つの祭りが合同で開催され、踊りも実施。翌年から「大入道」や「菅公」などのからくり山車が参加。昭和45年には現存する中部地区的ネリが初めて揃い、その後サンバフェスタを取り入れたりするなど趣向を凝らしながら続ってきた。踊りや山車、ネリには400人以上が参加。来場者は毎年20万人以上を記録している。

長い歴史の中で全日中止になつたのは集中豪雨による大水害に見舞われた昭和49年のみだったが、昨年、一昨年とコロナ禍の影響を受けて2年続けて開催を断念。令和4年に入つても収束の見通しが



密を避けるために 屋台周辺の混雑対策も徹底

3年ぶりの開催となるだけに、

まつり当日は例年にもまして大勢の来場者が訪れる可能性も予想される。会場内には屋台が出店するだけに、来場者の密集やマスクを外しての飲食は感染予防対策として特に注意が必要だ。出店場所の諏訪新道では屋台を背中合わせに並べ、屋台の前をそれぞれ一方通行にして混雑を回避。飲食指定エリアを設けて会場内の食べ歩きを自粛してもらうと

いつた対策を講じるとともに、屋台ではテイクアウトを前提とした商品を販売し、酒類の販売はないよう協力してもらっている。

ウイズコロナの時代の中でも、市民の力で脈々と続いてきた伝統行事を今後も続けていくるよう工夫を重ねていこう。出場する側も見る側も感染予防対策に十分な対策を講じることが、3年ぶりの開催となる大四日市まつりを成功に導くカギとなる

大四日市まつりご来場の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にご協力ください

- ご来場の際はマスク着用を推奨します。※熱中症には十分ご注意ください。
- 人ととの間隔を十分に取るようにご協力ください。
- 大声を出すなどの行為はご遠慮ください。
- こまめな手洗いや手指の消毒をお願いします。
- 声援ではなく、拍手の応援にご協力ください。
- 飲食指定エリア以外での飲食はご遠慮ください



例年とは違ひ制約も多い状況の中で参加を決断された出演団体の皆さん、強い想いを演技の醍醐味。また、多くの感染予防策を実行することができるよう、各団体の人々からさまざまな意見が交わされた。

話し合いの結果、参加団体に向けて健康チェックシートの記入や身体的な接觸を控えるなどの感染予防策のガイドラインを徹底

立たない中で、「今年こそ何とかまつりを取り戻したい」というのは大四日市まつり実行委員会をはじめとする関係者に共通する想いだった。例年は2月頃からまつりの内容を詰める時期になるが、感染状況の推移などを見守る中で開催に向けた関係者や出演者の意思統一是4月下旬に流れ込む。通常、まつりの内容を決める企画検討委員会は委員である識者を中心には話し合いが行われるが、4月下旬の委員会では出演団体の代表者約30人を交えた意見交換の場が持たれた。

感染状況に不安がある中で、どうすれば大四日市まつりを開催することができるのか。各団体の人々からさまざまな意見が交わされた。

話し合いの結果、参加団体に向けて健康チェックシートの記入や身体的な接觸を控えるなどの感染予防策のガイドラインを徹底

在といえば、まずは「大入道」。江戸時代後期に製作されたという身の丈4・5メートル、全高9メートルの日本一の大きさを誇るからくり人形だ。太鼓や銅鑼の音に合わせて3メートル近く首を伸ばす姿は圧巻。普段は山車や人形の中に入った6人の人形師がかけ声に合わせて操っているが、感染対策として声を出さずに動きを合わせられるように工夫を重ねているという。

からくり山車では天の岩戸の前で踊った女神アメノウズメノミコトを題材にした「岩戸山」や、学問の神様・菅原道真と2体の子どもが精巧な演技を披露する「菅公」、からくり人形が自由自在に動き回る妙技「はなれからくり」が見どころの「甕破り」なども登場する。

他にも捕鯨の様子を勇壮に再現した「鯨船・勢州組」の勇壮な演技や夏の夜空に響き渡る「諏訪大鼓」、江戸時代の趣きを感じさせる「大名行列」などが一堂に会するのは大四日市まつりの中からぜひ感じ取ってほしい。

例年とは違ひ制約も多い状況の中で参加を決断された出演団体の皆さん、強い想いを演技の醍醐味。

また、多くの感染予防策を実行することができるよう、各団体の人々からさまざまな意見が交わされた。

話し合いの結果、参加団体に向けて健康チェックシートの記入や身体的な接觸を控えるなどの感染予防策のガイドラインを徹底

在といえば、まずは「大入道」。江戸時代後期に製作されたという身の丈4・5メートル、全高9メートルの日本一の大きさを誇るからくり人形だ。太鼓や銅鑼の音に合わせて3メートル近く首を伸ばす姿は圧巻。普段は山車や人形の中に入った6人の人形師がかけ声に合わせて操っているが、感染対策として声を出さずに動きを合わせられるように工夫を重ねているという。

からくり山車では天の岩戸の前で踊った女神アメノウズメノミコトを題材にした「岩戸山」や、学問の神様・菅原道真と2体の子どもが精巧な演技を披露する「菅公」、からくり人形が自由自在に動き回る妙技「はなれからくり」が見どころの「甕破り」なども登場する。

他にも捕鯨の様子を勇壮に再現した「鯨船・勢州組」の勇壮な演技や夏の夜空に響き渡る「諏訪大鼓」、江戸時代の趣きを感じさせる「大名行列」などが一堂に会るのは大四日市まつりの中からぜひ感じ取ってほしい。

例年とは違ひ制約も多い状況の中で参加を決断された出演団体の皆さん、強い想いを演技の醍醐味。

また、多くの感染予防策を実行することができるよう、各団体の人々からさまざまな意見が交わされた。